

・廃棄物 土壤還元（土壤化）

・処分場 地層（地質）

として、周辺と同化させ自然に還す。

・ 廃棄物

土壌還元できないものは予め取り除く → 保管

《田中》

例えば、高濃度の金属、有機化合物など、将来のリサイクル技術の開発に期待

焼却残渣（＋有機物残渣）→ 土壌化しやすい

《大泊》

コンポストなど → 形態が土壌に近い

・有機物含量を制御（減量化）→ 前処理技術が重要

《山田、井上》

有機物 → 選別 + 堆肥化 → コンポスト

《田中：低負荷微生物反応型埋立地》

有機物残渣（生ゴミ主体）→ 選別してコンポスト（処分場全体）

・ 処分場

全て自然のもの（原材料：石、砂、粘土など）で創る

簡単な構造 → 例えば、底部全面に粘土層、その上に石層、石層を外部に開放

自然地盤とほぼ同じ（粘土＋石＋土壌化廃棄物）

浸出水で管理 → 異常のチェック、跡地の利用形態に使用

処分場の下流側に全域をカバーする揚水用井戸を設置

3. 跡地の利用

土壌化（安定化）の過程で、跡地利用を段階的に行う。段階分けは受け入れ基準（排水基準）、環境基準など

- ・第1段階　～　表面の利用（公園、ゴルフ場、農用地、グリーン地帯など）
- ・第2段階　～　内部を含めた利用（構造物の建設、形状の変化など）

4. 安定化と土壌化

- ・処分場を自然に還すという観点からは、土壌化が重要
- ・土壌（土）→ 多孔質体、水の中でかき混ぜると容易に分離する、有機物を多少含む
- ・安定化 → 無機化（ヨーロッパ）《松藤》
 - ・汚染度を溶出量で測る → 将来は含有量で《田中》
 - ・埋立地内は不飽和流動で水分がいきわたらない部分が多く、水の移動の仕方で溶出量が変化する。